

あ・うん

金剛禅総本山少林寺広報誌

vol.
88

2023 皐月・水無月

特集 / 道院長になって 共に走ろう



特集 道院長になって共に走ろう

若手人材の育成——ここ数年来の事業方針の一つとして、教団全体で取り組んでいる課題である。将来、この教団を背負って立つ道院長を育てていきたい。宗道臣開祖が「人づくりによる国づくり」という志を立てて開創した金剛禅を、現代社会に生きる人たちに信念をもって伝え広めていく道院長をつくらねばならない。そこで、今号では「若手人材の育成」に向けた取り組みを特集としてご紹介したい。

現状

表1は2022年11月現在の道院長の年齢別ヒストグラムである。60歳以上の道院長が全体の7割(ア+イ)、60歳未満の道院長が3割である(ウ+エ)。相対的に50代以下の道院長世代が少なく、今後、これらの世代の道院長をいかに増やしていくかが、金剛禅教団にとっての重要な課題である。

次に、表2は過去2年間の道院長資格認定研修会受講者の平均年齢である。概ね50歳台前半といったところだ。おそらく、50歳前後ともなると、家庭や仕事において多少の融通を利かすことができる生活環境に落ち着いてくるのではないかと推察する。また、幅広い年齢層の門信

徒を指導していくための人生経験も豊かになってくるのがこの年代層であろう。そのようなことから、時間的・経済的・精神的にゆとりを持つことができるのが50歳前後なのだろう。

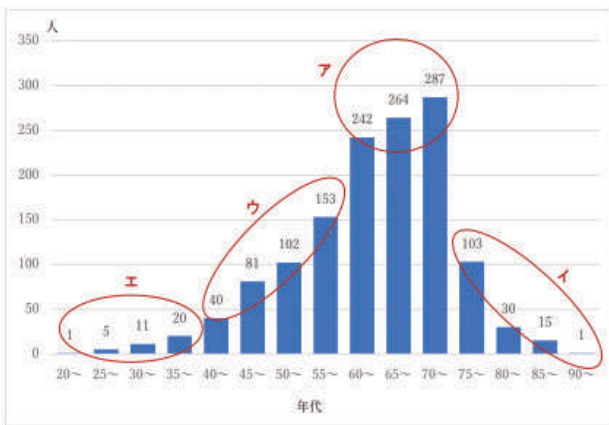


表1 道院長年齢別ヒストグラム(2022年11月)

認定研修会	平均年齢(歳)
2021年5月度	50.5
2021年8月度	50.4
2022年2月度	57.1
2022年5月度	58.3
2022年8月度	45.3
2022年10月度	50.7
2023年2月度	52.7

表2 認定研修会受講者の平均年齢

40代・50代拳士へ

そのようなことから、40代・50代拳士が近い将来の道院長として活動していただくのにもっとも近い世代であるといえる。40代・50代は体力的には20代・30代には劣ってくる。しかしその一方で、それをカバーし得る

深い熟練度に優れている。よって、40代・50代拳士には所属道院を超えて、地元教区や小教区行事、また武専に参加いただき、そこで仲間を増やし、精神的に研鑽を積んでいかれることに期待したい。

なお、本山で開催される特別昇格考試に至っても40代・50代の受験者が多い(※)。特昇合格はそこが到達点なのではなく、指導者へのスタートラインに立つことであり、特昇の許可とは、師家から指導者になることへ期待が示されたということであることを認識してほしい。

(※) 一般社団法人SHORINJI KEMPO UNITYが主催する行事。

20代・30代拳士へ

そして、40代・50代拳士に続くのが、20代・30代拳士である。論語によれば「三十にして立つ」といわれるが、人間としての未熟さを感じておられる人もあるだろう。しかし、やはり若さはなんといいっても「元気」であり、「可能性」であり、「希望」である。自身の未熟なところは今後の人生経験を積んでいくことで補っていけばよい。

また、いま道院も教区も、20代・30代拳士たちの元気澆刺とした活動を心から欲している。遠慮せず、積極的に教区研修会・小教区研修会・武専に参加してほしい。そして、できるだけ早期に正拳士四段の許可を受け、やがては開祖の志を受け継ぐ道院長として、金剛禅運動を先導して行ってほしい。

課題は仕事と家庭の両立

次に、表3をご覧いただきたい。これは、2022年8月に現役道院長(参与道院長含む)を対象に行ったアンケート調査を基に作成したものである。

これによると、道院長として

困っていたり、悩んでいたこと(複数回答可)

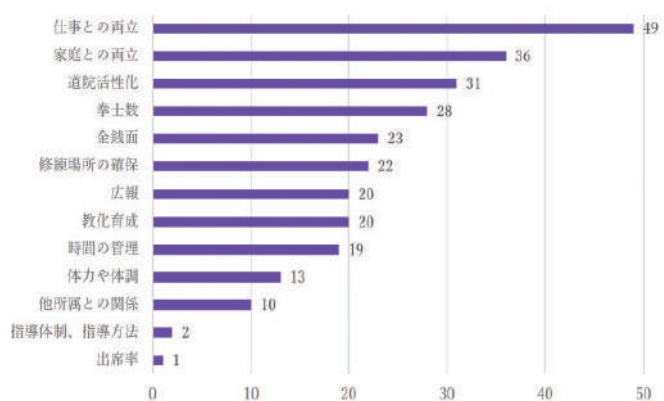


表3 道院長へのアンケート(2022年8月)

大変なことの第一は「仕事との両立」、第二は「家庭との両立」である。言わずもがな、仕事も家庭も生活の基盤を支える糧となるべきものである。これは、現代の日本社会における重要課題とまったく重なり合うものである。国も働き方改革や少子化対策に関するさまざまな政策を打ち立てようとしている。この改革の流れの中で、金剛禅教団においても、いわゆる「道院長としての働き方改革」をしっかり考え、道院長が仕事と家庭と道院を両立できるような「道院モデル」を明示していかねばならない。

参与道院長へ

現在、本山では「参与道院長制度」を推進している。参与道院長制度とは、複数の道院長で一つの道院を運営していく制度のことである。現在運営中の道院を次代の道院長へ正しく継承していくためにも、参与道院長制度は大変有効な制度である。

参与道院長制度を実施している道院では、道院長のうち一人を代表道院長とし、その他の道院長を参与道院長といっているが、参与道院長は代表道院長と協働して道院運営をしていく責任者であり、正規の「道院長(資格を有する者)」である。2022年度の道院長資格認定研修会では全受講者74名のうち69名が参与道院長としての受講者であった。また、2023年4月現在の参与道院長の数は103名で、道院全体の1割弱にまで増えてきた。門信徒にとっても、道院長資格を有する者が複数名道院に存在することは、安心感となって映るのではないだろうか。

以上のことから、いきなり単身で道院長になることに不安がある方は、まずは参与道院長と

して、現在の道院長と共に道院を盛り上げていってはどうか。そのプロセスの中で、代表道院長から面授面受で道院運営の急所となるところを学んでいられることで、やがては頼もしい道院長として成長できるはずである。

道院長を目指す人の「想い」

次に掲載するのは、昨年度、道院長資格認定研修会を受講された方より、本山に提出いただいたレポートの一部を抜粋したものである。皆さんがそれぞれに大切な「想い」をもって受講してください。このように「想い」を実現していけるような教団でありたい。ぜひご覧いただきたい。

「道院長の背中を見ていて、自分も道院長になりたいと思いつつ講を申し込みました。自分の間違った行動や考え方を、何気ない会話の中で注意し、指導し、間違っていることに気付かせてくれます。一本筋が通っているがその筋の幅は広く、よほど間違ったことをしない限り、笑顔

ですべてのことを認め、心の広い人間性に憧れ、尊敬し、自分も寛容で常に笑顔でいられる道院長になりたいと思いました。自分らしさも出しつつ、『ほつ』とできる道院を作り上げていきたいと思っています。」(栃木県 T 氏)

「自分にさまざまな経験をさせてくれた少林寺拳法と、自分を育ててくれた地元で恩返しをしたいと思っています。地元町会に話を聞いてみると、地域の繋がりが、年を追うごとに希薄になっていくので、交流の場が求められているということや、子どもに少林寺拳法を通して身心ともに強くなりたいという需要があることがわかりました。金剛禅を通して地域の需要に応えることで、少林寺拳法と地元で恩返しができると思います。」(東京都 I 氏)

では副道院長を務めさせていただいて、毎日充実しています。恩返しを行うためには、参与道院長になり、武専や道院を中心にさらに布教活動を実施する覚悟です。」(神奈川県 H 氏)

「現在私が在籍している道院の道院長が、高齢を理由に引退を考えています。また近年、近隣の道院が閉鎖していく現状を見て『道院や少林寺拳法が身近にあり続けるのが当然ではない』ということに気付かされました。道院長から『後を継いで指導者になつてみないか』と言われた時、私は『金剛禅と少林寺拳法を通じて、家族や仲間と共に平和に幸福に過ごしていきたい』、『道院という場所、指導者として、一人でも多くの人たちをより良き方向へ導いていくことをしていきたい』と以前から考えていたことを実行に移すべき時が来ていると感じました。その第一歩としてこの度受講を希望するに至りました。」(三重県 S 氏)

「この度、参与道院長に受講を申し込むにあたったのは、現道院長の推薦もあり、次世代への架け橋となるべく、もうひと踏ん張り本気でやってみようと思っただけです。やるからには、

教えや技法をしつかり継承し、残りの人生、本気で、夢や希望を持った若者を育て、地元で根付き、人づくりによる国づくりである金剛禅運動を広めていきたいと思っています。」(兵庫県 N 氏)

「道院長のもと、指導者としての姿勢や技術を学び、道院長の想いや情熱を少しでも多く受け継ぎ、私自身の想いも加えつつ、金剛禅運動に励みたいと考え、受講することを決意しました。」(奈良県 M 氏)

この道を共に走ろう

2023年度は我々の生活環境においても、さまざまに変化し、問題に直面することが多くあるであろう。しかし、むしろ混迷の時代だからこそ、金剛禅の在り方を自らの信念とし、人間本来の使命を自覚して有意義な人生を創る生き方を世に伝える指導者の存在が求められるし、我々はそのような使命感をもった存在でありたいものである。

将来、道院長となれる可能性は誰にでもある。ぜひ道院長になろう。道院長でしか味わえない人づくりの醍醐味がある。金

剛禅運動という理想境建設への道を共に走ってほしい。

	開催日	会場	申込×切日
1	2023/8/26(土)~8/27(日)	東京別院	2023/6/26
2	2023/10/28(土)~10/29(日)	東京別院	2023/8/28
3	2024/2/11(日)~2/12(月)	本山	2023/11/30

表4 道院長資格認定研修会の開催日

(ご案内)

道院長資格認定研修会の受講を希望される方は、道院長を通じて本山へご一報ください。本山より手続方法をご案内します。

◆お知らせ

金剛禅総本山少林寺役員の人事異動がありましたのでお知らせいたします。

- 退任(2023年3月31日付)
 - ・ 監事 石井利直(定年)
- 就任(2023年4月1日付)
 - ・ 監事 春日部裕樹



開祖語録 ダイジェスト

1975年3月
大学合宿



社会がここまで来てしまうと、個々の努力では、どんなもしようもないことが多すぎ、人生、なるようにしかならなくなる。いくら考えてみたって、明日は明日の風しか吹いてくれない。が、ならばだ、我かと思うほうに、とにかく今は生きておるのだから、一生懸命歩き出したほうがいい。私を見ろよ。体良くないのに、ああも言い、こうも言い、こうして頑張ってる。

努力を怠らず苦勞を重ねて事を成し遂げる精神を讀えた言葉に「愚公、山を移す」というのがあるけど、私はこれ好きだな。愚公いうのは、昔、昔、中国のあるところに住んでいた老人のことです。で、このおじいさんの家の前に高い山があり、出入りに不便でしょうがない。ついにたまりかね、子供と孫の三人がかりで山を切り崩しました。もちろん、山に立ち向かうなど愚かだと笑う人もいました。でも、じいさんはまるで動ずることもなく、「私が死んでも子供がいる。子供はまた孫を生み、子供は子供を産んで子々孫々絶えることはない。皆で時間を掛けて切り崩せば、山はこれ以上大きくはならないのだから、平らにできないわけがない」と答えたところ、どうだろうか、示唆に富んでいると思わない

「愚公、山を移す」、私これ好きだな

か。今すぐにはできなくても、考え方、見方、やり方を変えれば、不可能が可能になりえるということですね。しかも愚公の話には周囲や後々の人たちのことも思いやる、そういう人に何かをしてあげ、何かを与えようとする心遣いがある。「与える喜びを知らなければ人生というのはつまらない」と私よく君らに言うが、これは本当だぞ。自分だけで存在する世界なんてものは、資本主義だろうが社会主義だろうがありえないということ、どうぞわかれよ。で、付け加えていうなら、そういう気持ちで生きてたら、同じ笑うにしてもすばらしい笑いができる。すつきりした心で日々を過ごしてたら、ごまかしの薄笑いでない気持ちいい笑顔が、いつか自然とできるようになる。

そりゃ私だって最初からできたわけじゃない。男前とは言えんけど人に好かれる、信頼される人間になるべく、やはり相当意識して努力して今のこのいい表情で笑える男、宗道臣をつくってきた(笑)。将来への不安をグチャグチャ何となく考えず、過去へのとらわれをなくして、今を大事にすっきり生きることには頭も心も使おうじゃないか。

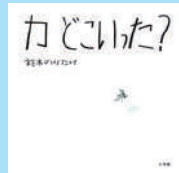
じています！ 絵本のおかげで、聞く力がついたのであるかもしれません。

最近読んだお薦めの絵本

◎カ どこいった？

作・絵：鈴木のりたけ

出版社：小学館

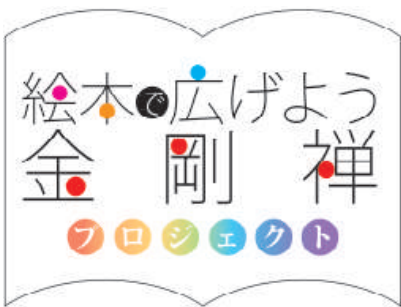


手の上に蚊がとまった。せーの、パーン！ あー逃げられた。蚊、どこいった？あ、次は積み木の上に。もう一回、せーの。ガッちゃん！ また逃げられた！

厚くてかたい紙のページを、パチン！ と勢よくめくりながら楽しむ、新しいタイプのアクション絵本の登場です。声に出して読み進めば、盛り上がること間違いなし！ 最後には驚きの展開が待っている！

絵本の読み聞かせを行っている方々の情報交換、相互交流を行いやすくするために、「Slack」という多人数でのコミュニケーションが可能なチャットツールを、活用しています。興味がある方はぜひメールにて参加希望をする旨をお知らせください。

(ehon@shorinjikempo.or.jp)



淡路中部道院
道院長 新田 福音

絵本を使ったゲーム

読み終わりに、「みんな『カ(蚊)』たたいたことある？」と問いかけたところ、「両手でやった」「壁に止まっているのをたたいたら血が出た！」「僕たたいたことない…」と様々で、『カ』をたたきたいという欲求を感じました。でもこの本を読んだときは冬……。そこで、蚊の絵が描いてある絵本の裏表紙を5~6人で囲んで、私が『カ』と言ったら叩くというゲームをしました。「かめ」「かさ」「ら」「カ」……ってな感じです。みんな手がピクピク動いて面白かったな～(*≧▽≦)♪

絵本の読み聞かせをすると、修練時間は短くなっているはずなのに、集中力が増して、修練全体に良い影響があると感

「格に至る」ための攻者の心得

「情けは人の為ならず」という言葉があります。人にかけて情けは、いずれ良い報いとなって自分に返って来るものだ、という意味です。かける「情け」と良い「報い」とのつながりは目には見えないので、「ふうん、そんなものか」くらいの受け止め方をされる言葉ですが、少なくとも少林寺拳法の修練(易筋行)においては大切な視点です。そのことを、法形修練における攻者の役割から確認してみたいと思います。

近年、修練において、指導者から「攻撃を正しく仕掛けなさい。」「上達の鍵は、『いい攻撃』にある。」という声を聞くことがよくあります。法形は、攻撃と防御・反撃の合理的な組み合わせになっています。例えば、内受突(裏)では、上段逆突に対し、守者は千鳥に入身しながら内受すると、ちょうど守者の拳の前に攻者の急所(三枚)が近づいてきて、そこに拳を出すと自ずと適切な間合と角度で反撃が決まるようになっていきます。ですから、正しい攻撃でないとは正しい法形にはなりません。

そして「修行の心得」には、「基本形に熟達すること」に続き「理を知ること」とあります。法形の正式呼称は「基本法形」ですから、法形は「基本形」そのものです。その正しい法形の修練を通して、守者は技を成り立たせる「理」を知ることができ、それによって応用も可能な

「護身の技術」になるといふことです。つまり、当たらない突き蹴り、引きも押しもない攻撃に対する手ぬるい、または強引な防御・反撃をいくら繰り返してみても、守者は本来、法形で学ばずの「理」を知ることができません。

このことは、「守・破・離」の「守」で言うところの「師の形の格に至る」ということです。ところが、この段階で变化的な攻撃を相手にして、「こうきたらどうする…」そうきたらこうすれば…と例外処置の工夫をくり返してしまふと、いわゆる「我流」が身に付いてしまい、「自分ならこうする」とか「自分の技はこうだ」といった、自我主体の修練にもなりやすいものです。「守」は「我流に堕することを戒める」訓えでもあります。正しい攻撃とは言えない变化的な攻撃を相手にしているような工夫が求められるのは、次の「破」の段階です。

そして、「修行の心得」で、「理を知ること」の次は「数をかけること」です。まず、基本法形で理を体得し、そして、理にかなった身体操作をくり返して身に付けます。それを意識して新科目表の「連続複数法形修練」に取り組まれると、よりよい効果が期待できることでしょう。

さて、少林寺拳法の修練は、攻守両方のデータを蓄積して、守者の技術を磨くという仕組みになっています。ですから、正しい攻

撃をすることは、守者にとってだけでなく、攻者にとっても大事な意味を持ちます。攻者にとっては、守者の防御・反撃によって得られる感覚が、自分が守者として修練する上で役立つものになるからです。得られる感覚が、防御・反撃の理にかなったものか、それとも本来の理から外れたものかは守者次第なのですが、そもそも、守者の対応がどういうものになるかは、攻者自身の攻撃によって違ってくるということなのです。

法形修練では、攻者がまず正しい攻撃を心掛けましょう。互いによい攻者となり、かける「情け」と良い「報い」が同時に生じて、「いい修練ができた、ありがとう」と言い合える易筋行でありたいものです。

読者への問いかけ

『僧階教本』の「少林寺拳法概論」には、「行・武としての少林寺拳法」について詳細が掲載されています。手元があれば再読してみてください。仲間との修練では、攻者は守者の技量に合わせて、速度や力を加減しながら攻撃しますが、「理」を知るため、ゆっくりでも最後まで正しい動線とタイミングで攻撃を仕掛けましょう。



チャレンジ①

チャレンジ②



からだ こころ
**身体と心はどのようにか
 わっている？どちらもきたえ
 るにはどうしたらいい？**

しょうねんとくほん
 『少年読本』p.32



**「いのち」ってなんだろう。
 理由もあわせてかんがえてみ
 よう。**

しょうねんとくほん
 『少年読本』p.6

道院長

元気の素



兵庫県・宝塚東道院
道院長 中野多恵

道院長になろうとしたきっかけ

私は、1979年6月、小学生のときに宝塚東道院へ入門しました。不審者が出たという手紙を妹が小学校からもらってきて、母が「何か身を守るようなものはないか」と探していた矢先、道衣姿の友人に誘われたのがきっかけでした。寺田一巳前道院長と父親が小学校の同級生だったこともあり、良い関係ですと道院へ通い続けることができました。

しかし、1996年6月、寺田前道院長が病気で帰らぬ人となりました。道院長の奥様から「ずっとがんばっている拳士に道院長を継いでもらいたい」と聞いて、「私がします」と言ったものの、それから様々な苦労がありました。当時、若手の女性が、先輩が多くいる中で道院長をすることはなかなか大変で、抵抗もかなり感じましたし、場所の確保にも苦戦しました。しかし、現在副道院長の阪上さんをはじめ、近隣の先生方や拳士の保護者など、多くの方のご尽力のおかげで、現在まで続けることができます。

道院長になって良かったこと

たくさんありすぎて書ききれませんが、特に印象に残っていることのみ紹介します。

先日、小学校1年生の拳士に「今日、体験に1人来るから教えてあげてな」と言ったところ、いつもはすぐ「もう終わろう」とか「もう疲れた」などという彼が、「俺がするのマネしてな」と一生懸命教えていました。大会で賞を取ることよりも嬉しい光景です。「これぞ人づくりやん」と1人で喜んでおりました。

他にも、たまたま練習日と誕生日が重なったときに、拳士たちがサプライズで色紙を用意してくれたり、勤続10年のときに「道院長の酒」と書いたお酒をプレゼントしてくれたりしたことも嬉しかったです。

また、本山で講習会があるときは、「一鶴本店ツアーに行きますが、予定は？」を合言葉に、拳士たちみんなで一鶴本店に行きます。自分の拳士時代にはなかったことなので、そんなとき本道に道院長になってよかったと思います。

家庭との両立

少林寺拳法の活動で家を空けることが多いので、将来、「オカンは少林寺拳法ばかりで家におらんかった」と言われないうえにも、お節やクリスマス料理は必ず作るようにしています。特に次男は、伊達巻や黒豆は私が作ったものしか食べないので、毎年丹精込めて作っています。黒豆は義母も楽しみにして



られています。パレンタイムンデーには、フォンダンシヨコラケーキを家族といつもお世話になっている方々に作っています。だいたい毎年21〜23ホール焼いています。

また、USJに遊びに行くなど、家族との時間も大切にするようにしています。フェイスブックやインスタグラムに投稿していますので、よかったらご覧ください。(@taechansensei)

道院長を目指すみんなへ

道院長の長になるわけですから、一筋縄ではいきません。自分の道院のことも考えなくてはいけないし、近隣道院の先生方や都道府県の先生方との接し方なども、もちろん大切にしなければなりません。

新風を巻き起こそうとしてもなかなか理解していただけない、ということもあるかと思えます。そこであきらめたり、対立してしまったりするのはなく、若い皆さんとベテランの方々の2点がコラボしたらどうなるかな、と想像を膨らませて、ワクワクしてから提案すると良いと思います。

また、道院長をしていなければなら出会う仲間たちに出会うことができます。全国に友だちができると思えば大変さもふつとびます。全国に、いや、全世界に友だちができると思つてがんばりましょう。(残念ながら今のところ全宇宙には友だちはいません。そのうちできるかも知らんけど。)



宝塚東道院

検索

研修会・講習会(地方) 開催報告

- 本山公認教区講習会(派遣講師)
「1月29日」静岡県教区(青山昌伸)、大阪府教区(佐々木正)、兵庫県教区(松本好史)
「2月5日」茨城県教区(野口雅司)、京都府教区(川上鐘成)、岡山県教区(佐々木正)
「2月26日」千葉県教区(青山昌伸)、山口県教区(鈴木義勝)
●教区研修会
「1月15日」広島県教区
「1月21日」東京都教区、佐賀県教区
「1月22日」群馬県教区、和歌山県教区
「1月29日」埼玉県教区
「2月19日」石川県教区、静岡県教区
「3月12日」静岡県教区、静岡県教区
「3月26日」埼玉県教区
●小教区研修会
「11月13日」京都東小教区
「1月8日」東京第十五小教区
「1月15日」熊本中央小教区
「1月22日」東京第十六小教区
「1月29日」東京第一・第三小教区合同、熊本南小教区
「2月5日」青森南部小教区、奈良北西部小教区
「2月9日」青森小教区
「2月11日」神奈川西湘小教区
「2月12日」茨城中央小教区、香川中讃小教区
「2月19日」三重中勢小教区
「2月22日」東京第五小教区
「2月26日」静岡西部第二小教区
「3月4日」山口西小教区
「3月5日」静岡中部小教区
「3月9日」青森小教区
「3月12日」香川中讃小教区
「3月18日」熊本東小教区
「3月19日」愛知東三河第一小教区
「3月26日」青森小教区
●その他
「2月11日」福岡大川道院設立45周年記念式典

INFORMATION

道院認証

認証おめでとうございます

●交代

■2023年2月1日付
美濃関道院 林 宏治

法階昇格者

昇格おめでとうございます

正範士
■2023年3月19日付
志村 力(タドツスポーツ少年団)

准範士
■2023年3月19日付
加藤 明(東京大塚道院)
尾崎 昭弘(相模原南道院)
和栗 研一郎(藤沢東道院)
高熊 直人(立山道院)

鈴木 貴博(名法道院)
吉野 有紀(大阪福島道院)

僧階昇任者

昇任おめでとうございます

大導師
■2023年3月5日付
黒瀬 好子(愛知朝日道院)
■2023年3月18日付
杉田 康明(長岡不二道院)
三井 純一(京都明珠道院)

■2023年3月1日付
大門 利夫(真岡中部道院)
細貝 誠一(栃木白鷺道院)
柴原 恵司(栃木白鷺道院)
藤井 隆之(栃木白鷺道院)
北野 雅史(埼玉深谷道院)
松本 英樹(埼玉宮原道院)
長嶋 克哉(浜松中央道院)
堀内 春幸(北駿小山道院)

■2023年3月5日付
脇山 和希(愛知梅坪道院)
永戸 和広(三重津東道院)
石山 晃一(滋賀守山道院)
須川 智弘(宮崎青島道院)
■2023年3月18日付
吉野 浩(仙台南道院)
久保 敦志(千葉清見台道院)
ヴェーバー イェスパー(東京茶屋坂道院)
佐々木 京一(横浜星川道院)
安藤 正二(横浜星川道院)

お布施

心より感謝申し上げます

王寺道院(故)河原弘道院長遺品収蔵式
▷奈良安堵道院 成瀬 有紀 10,000円
▷奈良斑鳩道院 藤山 武彦 10,000円
▷大和郡山南道院 河原 章二 10,000円

その他
▷豊田末野道院 服部 俊美 10,000円

▷岡山県教区 30,000円
▷山口県教区 35,240円

准範士昇格記念

▷大阪福島道院 吉野 有紀 10,000円

公認講習会

▷茨城県教区 30,000円
▷千葉県教区 30,000円
▷静岡県教区 30,000円
▷京都府教区 30,000円
▷大阪府教区 30,000円
▷兵庫県教区 30,000円

設立50周年記念帰山

▷我孫子道院 5,000円

訃報

謹んでご冥福をお祈り申し上げます

都留 好一 正眼道院元道院長、第243期生、大導師正範士七段、2023年2月16日逝去、満76歳
竹尾 朝寛 中津道院道院長、第155期生、大導師正範士八段、2023年2月19日逝去、満80歳
井上 勉 大阪平野道院元道院長、第134期生、大導師正範士七段、2023年3月16日逝去、満85歳

◎◎◎ 本山委員会・本山委員のご紹介 ◎◎◎

2023年4月1日からの本山委員会・本山委員をご紹介します。

【教学委員会】	〔委員長〕 松本 好史 〔委員〕 坂下 充 浜崎 哲也 藤井 省吾
【運営指導委員】	秋葉 みどり 片岡 三郎 河面 豊光
【研修企画プロジェクト】	〔委員長〕 迎田 展孝 〔委員〕 飯田 昌一 藤森 正和 益永 亮 山下 研治
【僧階論文審査員】	浅井 昌典 飯野 貴嗣 海鋒 雅之 春日部 裕樹 片岡 三郎 車田 喜男 小林 博紀 坂下 充 澤田 一彦 鈴木 義勝 高辻 吉治 多月 文博 中川 純 浜崎 哲也 原 宏 東山 忠裕 藤井 省吾 松本 好史 三柴 始 宮本 公己
【本山教師】	浅井 昌典 青山 昌伸 飯野 貴嗣 井戸家 正旺 今井 偉夫 宇都宮 俊二 江原 謙治 沖山 聖徳 海鋒 雅之 柏井 伸一 春日部 裕樹 片岡 三郎 車田 喜男 小泉 実 小林 登 齊藤 敏也 齊藤 政実 坂下 充 澤田 一彦 鈴木 義勝 高辻 吉治 多月 文博 永井 比佐志 中島 正樹 中山 文夫 野口 雅司 浜崎 哲也 原 宏 東山 忠裕 平井 富士雄 藤井 省吾 前田 保男 松本 好史 三柴 始 迎田 展孝 柳川 瀬一美 山下 研治 湯浅 裕二

～本山委員会・本山委員の使命と役割～

●教学委員会(任期1年)

【使命】 金剛禅の教義(修行法を含む体系全般)の充実をはかる

【役割】・教義に関する課題及び諮問について検討し、答申する

- ・内局と連携し、講習会等の企画、講習資料等の製作に参画する
- ・本山講習会における講師を務める

●運営指導委員(任期2年)

【使命】 道院、教区におけるトラブルへの対応及び未然防止をはかる

【役割】・問題解決のための調査及び改善対応を行う

- ・未然防止及び危機管理に関して検討及び提案する

●研修企画プロジェクト(任期2年)

【使命】 金剛禅指導者育成のための研修制度の確立

【役割】・金剛禅指導者育成にむけた状況分析、枠組みの提案

- ・本山教師研修会、道院長研修会(道院長講習会)の企画の充実にむけた提案
- ・本山講習会の講師を務める

●僧階論文審査員(任期2年)

【役割】・僧階レポートを審査する

●本山教師(任期2年)

【役割】・主に本山公認教区講習会の講師を務める

- ・本山講習会における講師を務める



◎◎◎ 2023年度道院長講習会のご案内 ◎◎◎

■開催日(申込締切、定員)

2次：5月20日・21日(締切：5月7日、定員：約400名)

オンライン：6月中旬配信予定(締切：5月31日、定員：なし)

■対象者

道院長・参与道院長・道院長代務

参集型に限り、少導師以上で二段以上かつ20歳以上で道院運営の補佐を行っている者の受講を「可」とします。

■申込方法

道院長…基幹事務システムよりお申し込みください。 ※門信徒の受講については本山にご連絡ください。

宗門の行

4月1日より「修行科目表」の運用が始まりました。修行科目表では、新たに「連続複数法形修練」の項目が追加され、今回も引き続き連続複数法形修練について見ていきます。裏表紙の技法および動画については、修行科目表に掲載の連続複数法形修練を紹介していますので、あわせてご覧ください。

本稿で掲載の連続複数法形修練を下記のQRコードより動画でご覧いただくことができます。動画をご覧いただくによりイメージがつかみやすくなりますので、ぜひご覧ください。

ショート Ver.
(攻守交代なし、片方のみ)

ロング Ver.
(攻守交代あり、左右)



覚えたことを使いこなす

科目表において、階段を一段一段上げるように向上していくという漸々ぜんぜんじゅうかく修学しゅうがくの考え方は創始以来一貫しています。今回の修行科目表では、法形を覚えるだけに止まらず、連続複数法形修練を用いて、法形同士の共通点や相違点、拳系や系統ごとのつながりを理解し、修練を通して使いこなせるようにしていくところまで見据えて構成されています。新たに法形を知ることの楽しさ以上に、使いこなせることの楽しさを感じていただくために、連続複数法形修練を取り入れてみてくださいます。



法形修練と運用法

法形修練の延長線上には、法形修練で学んだことを使いこなせるようにするための運用法があります。しかし、実際の

ところ、法形修練は法形修練、運用法は運用法というように、法形修練と運用法の間につながりがなく、それぞれを別個のものとして修練されているケースがしばしば見受けられます。

連続複数法形修練は、運用法の上達のみを狙いとしたものではありませんが、このような現状を踏まえて、修練の幹を法形としながらも、それが運用法につながるよう科目の一覧を配列しています。一つの攻撃に対して複数の反撃パターンで修練したり、基本となる法形とその変化技をセットで修練したりすることで、いわゆる限定乱捕りの要素を加えることができるのです。

限定して修得する

技法を運用する段階においては、どのような攻撃が来ても対応できるようにしておくことが理想です。しかしいくらそれが理想だからといって、初心の内から相手に自由に攻撃してもらってもうまく対応できないように、修得するには順序・段階があります。

剛法であれば、連攻撃よりも単攻撃に対応する練習を先に行う。同じ単攻撃であっても、順突か逆突どちらかに限定して練習を行うなどのステップが必要です。その限定した攻撃に対して、これまでに学んだ法形で対応していきます。修行科目表にある連続複数法形修練の一覧は、限定乱捕りの一覧として使うこともできます。

点と点を結ぶ

これらの配列は複数の法形を一緒に修練することにより、一つの法形を修練するだけでは得られない効果を狙っています。点と点を結んで線へ、線と線を結んで面へ、面と面を結んで立体へと発展していくように、一つの法形を様々な法形と関連づけていく作業を、頭ではなく体を動かすことを通して行うようにしています。当然うまくできないこともあります。したが、繰り返し行って対応力を高め、これまでに学んだ法形を使いこなせるようにしていただく。

(富田雅志)

DISCUSSION

さらに考察を深めるため

- 今号(裏表紙)に掲載の連続複数法形修練の特徴は何だと思えますか。
- 掲載されている三技を実際に行ってみましょう。
- なれてきたら、攻撃の順番をランダムにして、対応する練習を行ってみましょう。



宗門の行としての少林寺拳法

法形修練と運用法をつなぐ

法形修練の延長線上には、法形修練で学んだことを使いこなせるようにするための運用法がある。点と点を結んで線へ、線と線を結んで面へ、面と面を結んで立体へと発展していくように、一つの法形を様々な法形と関連づけていく作業を、頭ではなく体を動かすことを通して行うのである。

→詳細は11ページ「宗門の行」へ

【連続複数法形修練】

小手抜 → 片手寄抜 → 巻抜(片手)



ショート Ver.
(攻守交代なし、片方のみ)



ロング Ver.
(攻守交代あり、左右)



文 / 富田雅志 演武者 / 内藤大将 大拳士五段、富田雅志 大拳士六段



SHORINJI KEMPO
少林寺拳法



金剛禅総本山少林寺のSNSも、ぜひご覧ください。